

5課

すべて神の栄光のために

8月1日

安息日午後

7月25日

暗証聖句

だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである。(Ⅰコリント 10:31、口語訳)

だから、あなたがたは食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい。(Ⅰコリント 10:31、新共同訳)

今週の聖句

Ⅰコリント 8章、使徒言行録(使徒行伝) 15:20、Ⅰコリント 9:1～6、Ⅰコリント 10:5～22、申命記 6:4、5、マルコ 12:28～31

今週のテーマ

Ⅰコリント8～10章は、性に関する議論(5～6章)を締めくくると同時に、コリントの信徒から送られてきた手紙(Ⅰコリ 7:1)を通して尋ねられた具体的な質問に対するパウロの答えを紹介しています。これらの答えは、コリントの信徒への手紙Ⅰ(コリント人への第一の手紙)の残りの部分の中心を占めています。

Ⅰコリント7章の橋渡しの性質は、みだらな行い(5～7章)と偶像礼拝(8～10章)が互に関連した主題であることを示しています。実際、新約聖書では、これら二つの主題がしばしば一緒に言及されています(使徒 15:20、29、21:25、Ⅰコリ 6:9、エフェ[エペ] 5:5、コロ 3:5、黙 21:8、22:15 参照)。

一般的に、Ⅰコリント5～7章では、みだらな行い(不品行)の問題を扱っていますが、Ⅰコリント8～10章におけるパウロのおもな関心は、偶像礼拝の問題です。クリスチャンは両方を避けなければならないと、パウロは述べています(Ⅰコリ 6:18、10:14)。

先週、私たちは、聖霊が宿ってくださる神殿(聖霊の宮)になることによって(同捲 6:19、20)、みだらな行いを避けることができることを学びました。今週は、「すべて神の栄光を現すために」[口語訳「すべて神の栄光のために」](同 10:31)行うことによって、偶像礼拝を避けることができることを学びます。

※Ⅰコリ 5～10章全体は、各自お手元の聖書をお読みください。

I コリ 7:1 (新共同訳)

7:1 そちらから書いてよこしたことに
いて言えば、男は女に触れない方がよい。

使徒 15:20、29 (新共同訳)

15:20 ただ、偶像に供えて汚れた肉と、み
だらな行いと、絞め殺した動物の肉と、
血とを避けるようにと、手紙を書くべき
です。

15:29 すなわち、偶像に献げられたもの
と、血と、絞め殺した動物の肉と、みだ
らな行いとを避けることです。以上を慎
めばよいのです。健康を祈ります。」

使徒 21:25 (新共同訳)

21:25 また、異邦人で信者になった人た
ちについては、わたしたちは既に手紙を
書き送りました。それは、偶像に献げた
肉と、血と、絞め殺した動物の肉とを口
にしないように、また、みだらな行いを
避けるようにという決定です。」

I コリ 6:9 (新共同訳)

6:9 正しくない者が神の国を受け継げな
いことを、知らないのですか。思い違
いをしてはいけません。みだらな者、偶像
を礼拝する者、姦通する者、男娼、男色を
する者、

エフェ 5:5 (新共同訳)

5:5 すべてみだらな者、汚れた者、また貪
欲な者、つまり、偶像礼拝者は、キリス
トと神との国を受け継ぐことはできませ
ん。このことをよくわきまなさい。

黙 21:8 (新共同訳)

21:8 しかし、おくびょうな者、不信仰な
者、忌まわしい者、人を殺す者、みだ
らな行いをする者、魔術を使う者、偶像
を拝む者、すべてうそを言う者、このよ
うな者たちに対する報いは、火と硫黄の燃
える池である。それが、第二の死である。」

黙 22:15 (新共同訳)

22:15 犬のような者、魔術を使う者、みだ
らなことをする者、人を殺す者、偶像
を拝む者、すべて偽りを好み、また行う
者は都の外にいる。

I コリ 6:18 (新共同訳)

6:18 みだらな行いを避けなさい。人が犯

I コリ 7:1 (口語訳)

7:1 さて、あなたがたが書いてよこした
事について答えると、男子は婦人にふれ
ないがよい。

使徒 15:20、29 (口語訳)

15:20 ただ、偶像に供えて汚れた物と、不
品行と、絞め殺したものと、血とを、避
けるようにと、彼らに書き送ることにし
たい。

15:29 それは、偶像に供えたものと、血
と、絞め殺したものと、不品行とを、避
けるということである。これらのものか
ら遠ざかっておれば、それでよろしい。
以上。」

使徒 21:25 (口語訳)

21:25 異邦人で信者になった人たちに
は、すでに手紙で、偶像に供えたものと、
血と、絞め殺したものと、不品行とを、
慎むようにとの決議が、わたしたちから
知らせてある。」

I コリ 6:9 (新共同訳)

6:9 それとも、正しくない者が神の国を
つぐことはないのを、知らないのか。ま
ちがってはいけません。不品行な者、偶像
を礼拝する者、姦淫をする者、男娼とな
る者、男色をする者、盗む者、

エペ 5:5 (口語訳)

5:5 あなたがたは、よく知っておかねば
ならない。すべて不品行な者、汚れたこ
とをする者、貪欲な者、すなわち、偶像
を礼拝する者は、キリストと神との国を
つぐことができない。

黙 21:8 (口語訳)

21:8 しかし、おくびょうな者、信じない
者、忌むべき者、人殺し、姦淫を行う者、
まじないをする者、偶像を拝む者、すべ
て偽りを言う者には、火と硫黄の燃えて
いる池が、彼らの受くべき報いである。
これが第二の死である。」

黙 22:15 (口語訳)

22:15 犬ども、まじないをする者、姦淫を
行う者、人殺し、偶像を拝む者、また、
偽りを好みかつこれを行う者はみな、外
に出されている。

I コリ 6:18 (口語訳)

6:18 不品行を避けなさい。人の犯すすべ

す罪はすべて体の外にあります。しかし、みだらな行いをする者は、自分の体に対して罪を犯しているのです。

Ⅰコリ 10:14 (新共同訳)

10:14 わたしの愛する人たち、こういうわけですから、偶像礼拝を避けなさい。

Ⅰコリ 6:19、20 (新共同訳)

6:19 知らないのですか。あなたがたの体は、神からいただいた聖霊が宿ってくださる神殿であり、あなたがたはもはや自分自身のものではないのです。

6:20 あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。だから、自分の体で神の栄光を現しなさい。

Ⅰコリ 10:31 (新共同訳)

10:31 だから、あなたがたは食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい。

ての罪は、からだの外にある。しかし不品行をする者は、自分のからだに対して罪を犯すのである。

Ⅰコリ 10:14 (口語訳)

10:14 それだから、愛する者たちよ。偶像礼拝を避けなさい。

Ⅰコリ 6:19、20 (口語訳)

6:19 あなたがたは知らないのか。自分のからだは、神から受けて自分の内に宿っている聖霊の宮であって、あなたがたは、もはや自分自身のものではないのである。

6:20 あなたがたは、代価を払って買い取られたのだ。それだから、自分のからだをもって、神の栄光をあらわしなさい。

Ⅰコリ 10:31 (口語訳)

10:31 だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである。

日曜日 7月26日 知識と愛

問1 **Ⅰコリント 8:1～13** を読んでください。パウロはなぜ知識と愛を対比させているのでしょうか。そこにはどんな背景があり、彼は何を語ろうとしているのでしょうか。

パウロは偶像に供えられた肉(口語訳:偶像への供え物)という主題を用いて、他者への愛の欠如という、より深い問題について論じています(Ⅰコリ8章)。偶像に供えられた肉の問題は、コリントの教会を二つのグループに分裂させました。ある人たちは、ほかの神々など存在しないことを知っていたため、何でも食べる権利があると信じていました(同8:4)。これらの人たちは、「強い(人々)」(同4:10)と呼ばれており、このような行為に反対する人々は、「弱い人々」[口語訳「弱い者たち」](同8:9～12)と呼ばれています。パウロがそのようなレッテルを用いたのは、彼らが以前の異教徒としての経験に由来する迷信的な信仰を克服していなかったからです。強い人々が偶像に供えられた肉を食べているのを見ると、弱い人々は、キリスト教と偶像礼拝が両立すると結論づけてしまうかもしれません。ですからパウロは、強い人々が弱い人々のつまずきとなることを望まなかったのです。

聖書は、偶像に供えられた肉を食べる[口語訳:偶像への供え物を食べる]という行為を非常に否定的に捉えています(使徒15:20、29、21:25、黙2:14、20と比較)。しかしパウロは、これらの箇所に見られるような過激な表現はしていません。彼のおもな懸念は、知識の誤用がもたらす不一致にあるからです。パウロは知識そのものを

悪として批判しているのではなく、教会に傲慢と分裂をもたらすような知識に反対しているのです。愛を伴わない知識は、真の知識ではありません(Ⅰコリ 8:2)。真の知識は、神を愛し、神に知られるときにのみ生じます(同 8:3)。

パウロは申命記6:4を引用し、信者は、神が唯一であることを知らなければならないことを示しています(同 8:4~6)。興味深いことに、彼は申命記6:4、5に見られるのと同じ考えに従っています。そこでは、私たちの神は唯一であるという記述のあとに、「あなたの神、主を愛しなさい」[口語訳「あなたの神、主を愛さなければならない」]という命令が続いています。パウロにとっても、モーセにとっても、愛の伴わない知識は無価値でした。

自分の知識に自信のあった強い人々は、偶像に供えられた肉(偶像への供え物)を食べることは無害だと信じていました。水曜日と木曜日の研究で見ると、パウロは一定の条件の下で彼らにその権利を認めました。しかし、もしそれが弱い人々(弱い者たち)にとってつまずきとなるならば(Ⅰコリ 8:9)、それは避けなければなりません。クリスチャンは、キリストと他者への愛のゆえに、自己否定を実践すべきなのです。

【参考】英語テキストにある全文

Paul argues that, without love, knowledge may become a bad thing (1 Corinthians 8). In what situations can knowledge without love indeed be bad?

パウロは、愛がなければ知識は悪いものになりかねないと論じています(Ⅰコリント8章)。愛を伴わない知識が、実際にどのような状況下で悪いものとみなされるのでしょうか。

33

Ⅰコリ 8:1~13 (新共同訳)

8:1 偶像に供えられた肉について言えば、「我々は皆、知識を持っている」ということは確かです。ただ、知識は人を高ぶらせるが、愛は造り上げる。

8:2 自分は何か知っていると思う人がいたら、その人は、知らねばならぬことをまだ知らないのです。

8:3 しかし、神を愛する人がいれば、その人は神に知られているのです。

8:4 そこで、偶像に供えられた肉を食べることについてですが、世の中に偶像の神などはなく、また、唯一の神以外にいかなる神もないことを、わたしたちは知っています。

8:5 現に多くの神々、多くの主がいると思われているように、たとえ天や地に神々と呼ばれるものもいても、

Ⅰコリ 8:1~13 (口語訳)

8:1 偶像への供え物について答えると、「わたしたちはみな知識を持っている」ことは、わかっている。しかし、知識は人を誇らせ、愛は人の徳を高める。

8:2 もし人が、自分は何か知っていると思うなら、その人は、知らなければならぬほどの事すら、まだ知っていない。

8:3 しかし、人が神を愛するなら、その人は神に知られているのである。

8:4 さて、偶像への供え物を食べることについては、わたしたちは、偶像なるものは実際は世に存在しないこと、また、唯一の神のほかには神がないことを、知っている。

8:5 というのは、たとい神々といわれるものが、あるいは天に、あるいは地にあるとしても、そして、多くの神、多くの主があるようではあるが、

8:6 わたしたちにとっては、唯一の神、父である神がおられ、万物はこの神から出、わたしたちはこの神へ帰って行くのです。また、唯一の主、イエス・キリストがおられ、万物はこの主によって存在し、わたしたちもこの主によって存在しているのです。

8:7 しかし、この知識がだれにでもあるわけではありません。ある人たちは、今までの偶像になじんできた習慣にとらわれて、肉を食べる際に、それが偶像に供えられた肉だということが念頭から去らず、良心が弱いために汚されるのです。

8:8 わたしたちを神のもとに導くのは、食物ではありません。食べないからといって、何かを失うわけではなく、食べたからといって、何かを得るわけではありません。

8:9 ただ、あなたがたのこの自由な態度が、弱い人々を罪に誘うことにならないように、気をつけなさい。

8:10 知識を持っているあなたが偶像の神殿で食事の席に着いているのを、だれかが見ると、その人は弱いのに、その良心が強められて、偶像に供えられたものを食べるようにならないだろうか。

8:11 そうなると、あなたの知識によって、弱い人が滅びてしまいます。その兄弟のためにもキリストが死んでくださったのです。

8:12 このようにあなたがたが、兄弟たちに対して罪を犯し、彼らの弱い良心を傷つけるのは、キリストに対して罪を犯すことなのです。

8:13 それだから、食物のことがわたしの兄弟をつまずかせるくらいなら、兄弟をつまずかせないために、わたしは今後決して肉を口にしません。

I コリ 4:10 (新共同訳)

4:10 わたしたちはキリストのために愚かな者となっているが、あなたがたはキリストを信じて賢い者となっています。わたしたちは弱いが、あなたがたは強い。あなたがたは尊敬されているが、わたしたちは侮辱されています。

使徒 15:20、29 (新共同訳)

15:20 ただ、偶像に供えて汚れた肉と、み

8:6 わたしたちには、父なる唯一の神のみがいますのである。万物はこの神から出て、わたしたちもこの神に帰する。また、唯一の主イエス・キリストのみがいますのである。万物はこの主により、わたしたちもこの主によっている。

8:7 しかし、この知識をすべての人が持っているのではない。ある人々は、偶像についての、これまでの習慣上、偶像への供え物として、それを食べるが、彼らの良心が、弱いために汚されるのである。

8:8 食物は、わたしたちを神に導くものではない。食べなくても損はないし、食べても益にはならない。

8:9 しかし、あなたがたのこの自由が、弱い者たちのつまずきにならないように、気をつけなさい。

8:10 なぜなら、ある人が、知識のあるあなたが偶像の宮で食事をしているのを見た場合、その人の良心が弱いため、それに「教育されて」、偶像への供え物を食べるようにならないだろうか。

8:11 するとその弱い人は、あなたの知識によって滅びることになる。この弱い兄弟のためにも、キリストは死なれたのである。

8:12 このようにあなたがたが、兄弟たちに対して罪を犯し、その弱い良心を痛めるのは、キリストに対して罪を犯すことなのである。

8:13 だから、もし食物がわたしの兄弟をつまずかせるなら、兄弟をつまずかせないために、わたしは永久に、断じて肉を食べることはしない。

I コリ 4:10 (口語訳)

4:10 わたしたちはキリストのゆえに愚かな者となり、あなたがたはキリストにあって賢い者となっている。わたしたちは弱いが、あなたがたは強い。あなたがたは尊ばれ、わたしたちは卑しめられている。

使徒 15:20、29 (口語訳)

15:20 ただ、偶像に供えて汚れた物と、不

だらな行いと、絞め殺した動物の肉と、血とを避けるようにと、手紙を書くべきです。

15:29 すなわち、偶像に献げられたものと、血と、絞め殺した動物の肉と、みだらな行いとを避けることです。以上を慎めばよいのです。健康を祈ります。』

使徒 21:25 （新共同訳）

21:25 また、異邦人で信者になった人たちについては、わたしたちは既に手紙を書き送りました。それは、偶像に献げた肉と、血と、絞め殺した動物の肉とを口にしないように、また、みだらな行いを避けるようにという決定です。』

黙 2:14、20 （新共同訳）

2:14 しかし、あなたに対して少しばかり言うべきことがある。あなたのところには、バラムの教を奉ずる者がいる。バラムは、イスラエルの子らの前につまずきとなるものを置くようにバラクに教えた。それは、彼らに偶像に献げた肉を食べさせ、みだらなことをさせるためだった。

2:20 しかし、あなたに対して言うべきことがある。あなたは、あのイゼベルという女のすることを大目に見ている。この女は、自ら預言者と称して、わたしの僕たちを教え、また惑わして、みだらなことをさせ、偶像に献げた肉を食べさせている。

申 6:4、5 （新共同訳）

6:4 聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。

6:5 あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。

品行と、絞め殺したものと、血とを、避けるようにと、彼らに書き送ることにしたい。

15:29 それは、偶像に供えたものと、血と、絞め殺したものと、不品行とを、避けるということである。これらのものから遠ざかっておれば、それでよろしい。以上。』

使徒 21:25 （口語訳）

21:25 異邦人で信者になった人たちには、すでに手紙で、偶像に供えたものと、血と、絞め殺したものと、不品行とを、慎むようにとの決議が、わたしたちから知らせてある。』

黙 2:14、20 （口語訳）

2:14 しかし、あなたに対して責むべきことが、少しばかりある。あなたがたの中には、現にバラムの教を奉じている者がある。バラムは、バラクに教え込み、イスラエルの子らの前に、つまずきになるものを置かせて、偶像にささげたものを食べさせ、また不品行をさせたのである。

2:20 しかし、あなたに対して責むべきことがある。あなたは、あのイゼベルという女を、そのなすがままにさせている。この女は女預言者と自称し、わたしの僕たちを教え、惑わして、不品行をさせ、偶像にささげたものを食べさせている。

申 6:4、5 （口語訳）

6:4 イスラエルよ聞け。われわれの神、主は唯一の主である。

6:5 あなたは心をつくし、精神をつくし、力をつくして、あなたの神、主を愛さなければならない。

月曜日 7月27日 無私的愛

問2 I コリント 9:1～6 を読んでください。この箇所は、愛に動機づけられた自己否定を実践することの意味について、どのような具体的な例を示していますか。

一見すると、I コリント9章におけるパウロの使徒職の弁護は、「知識」と「愛」に関する

直前の議論と無関係のように思えます。しかし私たちは、聖書がもともと章で区切られて書かれたものではないことを忘れてはなりません。パウロがこの章で教えていることは、それ以前の内容と切り離されたものではありません。実際、Ⅰコリント9章は、キリストと兄弟姉妹に対する無私の愛の実践的な例を示しています。愛のために、パウロはいくつかの権利を放棄していました。

「食べたり、飲んだりする権利」【口語訳「飲み食いをする権利」】(Ⅰコリ 9:4)——ここでの飲食とは、一般的な経済的援助をあらわします。使徒としてパウロは、自分が奉仕する人々から物質的な援助を受ける権利を持っていました。当時のほかの宗教指導者たちは、まさにそうしていました。しかし、パウロはそうしなかったのです。代わりに、テント造りで自活していました(使徒 18:3)。

「信者である妻を連れて歩く権利」(Ⅰコリ 9:5)——既婚の使徒は、教会の費用で妻と共に宣教旅行をすることが許されていました。宣教師夫婦の例としては、プリスカとアクラ【新共同訳:プリスカとアキラ】(ロマ 16:3)、アンドロニコとユニアス【口語訳:アンデロニコとユニアス】(同 16:7)などが挙げられます。しかし、パウロは独身でした(Ⅰコリ 7:8)。結婚すれば、妻を伴い、夫婦に対する経済的支援を受ける権利を得ることができたのです。

「生活の資を得るための仕事をしなくてもよいという権利」【口語訳「労働をせずにいる権利」】(Ⅰコリ 9:6)——パウロとバルナバは、宣教活動に対して生活費を得る権利を持っていました(同 9:4~6)。パウロはテント造りを生業としていましたが(使徒 18:3)、バルナバの職業はわかりません。彼が非常に気前の良い人であったことはわかっており(同 4:36、37)、それゆえ、彼も自活をいといませんでした。

Ⅰコリント9:7~11でパウロは、同9:6の考えを発展させ、彼とバルナバが教会から生活費を得るのは正当であることを示しています(Ⅰコリ 9:11、12)。主ご自身が、「福音を宣べ伝える人たちには福音によって生活の資を得るように、と指示されました」【口語訳「福音を宣べ伝えている者たちが福音によって生活すべきことを、定められたのである」】(同 9:14、Ⅰテモ 5:18と比較)。しかしパウロは、「わたしたちはこの権利を用いませんでした」【口語訳「わたしたちは、この権利を利用せず」】(Ⅰコリ 9:12)と述べています。このように、パウロは自らを自己否定の模範として示し(同 9:1~18)、そのことがコリントにおける福音宣教に益をもたらすと主張しています(同 9:19~23)。

【参考】英語テキストにある全文

What are things that, though they perhaps are due you, you might still be better off relinquishing in order to be a more effective witness for the Lord?

たとえ自分に当然の権利があっても、主のためにもっと効果的な証し人となるためには、あえて手放したほうがよいものは何でしょうか。

34

Ⅰコリ 9:1~27 (新共同訳)
9:1 わたしは自由な者ではないか。使徒ではないか。わたしたちの主イエスを見たではないか。あなたがたは、主のため

Ⅰコリ 9:1~27 (口語訳)
9:1 わたしは自由な者ではないか。使徒ではないか。わたしたちの主イエスを見たではないか。あなたがたは、主にある

にわたしが働いて得た成果ではないか。
9:2 他の人たちにとってわたしは使徒でないにしても、少なくともあなたがたにとっては使徒なのです。あなたがたは主に結ばれており、わたしが使徒であることの生きた証拠だからです。

9:3 わたしを批判する人たちには、こう弁明します。

9:4 わたしたちには、食べたり、飲んだりする権利が全くないのですか。

9:5 わたしたちには、他の使徒たちや主の兄弟たちやケファのように、信者である妻を連れて歩く権利がないのですか。

9:6 あるいは、わたしとバルナバだけには、生活の資を得るための仕事をしなくてもよいという権利がないのですか。

9:7 そもそも、いったいだれが自費で戦争に行きますか。ぶどう畑を作って、その実を食べない者がいますか。羊の群れを飼って、その乳を飲まない者がいますか。

9:8 わたしがこう言うのは、人間の思いからでしょうか。律法も言っているではないですか。

9:9 モーセの律法に、「脱穀している牛に口籠をはめてはならない」と書いてあります。神が心にかけておられるのは、牛のことですか。

9:10 それとも、わたしたちのために言うておられるのでしょうか。もちろん、わたしたちのためにそう書かれています。耕す者が望みを持って耕し、脱穀する者が分け前にあずかることを期待して働くのは当然です。

9:11 わたしたちがあなたがたに霊的なものを蒔いたのなら、あなたがたから肉のものを刈り取ることは、行き過ぎでしょうか。

9:12 他の人たちが、あなたがたに対するこの権利を持っているとすれば、わたしたちはなおさうではありませんか。しかし、わたしたちはこの権利を用いませんでした。かえってキリストの福音を少しでも妨げてはならないと、すべてを耐え忍んでいます。

9:13 あなたがたは知らないのですか。神殿で働く人たちは神殿から下がる物を食

わたしの働きの実ではないか。

9:2 わたしは、ほかの人に対しては使徒でないとしても、あなたがたには使徒である。あなたがたが主にあることは、わたしの使徒職の印なのである。

9:3 わたしの批判者たちに対する弁明は、これである。

9:4 わたしたちには、飲み食いをする権利がないのか。

9:5 わたしたちには、ほかの使徒たちや主の兄弟たちやケパのように、信者である妻を連れて歩く権利がないのか。

9:6 それとも、わたしとバルナバとだけには、労働をせずにいる権利がないのか。

9:7 いったい、自分で費用を出して軍隊に加わる者があるうか。ぶどう畑を作っていて、その実を食べない者があるうか。また、羊を飼っていて、その乳を飲まない者があるうか。

9:8 わたしは、人間の考えでこう言うのではない。律法もまた、そのように言っているではないか。

9:9 すなわち、モーセの律法に、「穀物をこなしている牛に、くつこを付けてはならない」と書いてある。神は、牛のことを心にかけておられるのだろうか。

9:10 それとも、もっぱら、わたしたちのために言うておられるのか。もちろん、それはわたしたちのためにしるされたのである。すなわち、耕す者は望みをもって耕し、穀物をこなす者は、その分け前をもらう望みをもってこなすのである。

9:11 もしわたしたちが、あなたがたのために霊のものを蒔いたのなら、肉のものをあなたがたから刈りとるのは、行き過ぎだろうか。

9:12 もしほかの人々が、あなたがたに対するこの権利にあずかっているとすれば、わたしたちはなおさらのことではないか。しかしわたしたちは、この権利を利用せず、かえってキリストの福音の妨げにならないようにと、すべてのことを忍んでいる。

9:13 あなたがたは、宮仕えをしている人たちは宮から下がる物を食べ、祭壇に奉

べ、祭壇に仕える人たちは祭壇の供え物の分け前にあずかります。

9:14 同じように、主は、福音を宣べ伝える人たちには福音によって生活の資を得るようと、指示されました。

9:15 しかし、わたしはこの権利を何一つ利用したことはありません。こう書いたのは、自分もその権利を利用したいからではない。それくらいなら、死んだ方がましです……。だれも、わたしのこの誇りを無意味なものにしてはならない。

9:16 もっとも、わたしが福音を告げ知らせても、それはわたしの誇りにはなりません。そうせざるはいられないことだからです。福音を告げ知らせないなら、わたしは不幸なのです。

9:17 自分からそうしているなら、報酬を得るでしょう。しかし、強いられるのなら、それは、ゆだねられている務めなのです。

9:18 では、わたしの報酬とは何でしょうか。それは、福音を告げ知らせるときにそれを無報酬で伝え、福音を伝えるわたしが当然持っている権利を用いないということです。

9:19 わたしは、だれに対しても自由な者ですが、すべての人の奴隷になりました。できるだけ多くの人を得るためです。

9:20 ユダヤ人に対しては、ユダヤ人のようになりました。ユダヤ人を得るためです。律法に支配されている人に対しては、わたし自身はそうではないのですが、律法に支配されている人のようになりました。律法に支配されている人を得るためです。

9:21 また、わたしは神の律法を持っていないわけではなく、キリストの律法に従っているのですが、律法を持たない人に対しては、律法を持たない人のようになりしました。律法を持たない人を得るためです。

9:22 弱い人に対しては、弱い人のようになりしました。弱い人を得るためです。すべての人に対してすべてのものになりました。何とかして何人かでも救うためです。

仕している人たちは祭壇の供え物の分け前にあずかることを、知らないのか。

9:14 それと同様に、主は、福音を宣べ伝えている者たちが福音によって生活すべきことを、定められたのである。

9:15 しかしわたしは、これらの権利の一つも利用しなかった。また、自分がそうしてもらいたいから、このように書くのではない。そうされるよりは、死ぬ方がましである。わたしのこの誇は、何者にも奪い去られてはならないのだ。

9:16 わたしが福音を宣べ伝えても、それは誇りにはならない。なぜなら、わたしは、そうせざるはおれないからである。もし福音を宣べ伝ええないなら、わたしはわざわざいである。

9:17 進んでそれをすれば、報酬を受けるであろう。しかし、進んでしないとしても、それは、わたしにゆだねられた務めなのである。

9:18 それでは、その報酬はなんであるか。福音を宣べ伝えるのにそれを無代価で提供し、わたしが宣教者として持つ権利を利用しないことである。

9:19 わたしは、すべての人に対して自由であるが、できるだけ多くの人を得るために、自ら進んですべての人の奴隷になった。

9:20 ユダヤ人には、ユダヤ人のようになった。ユダヤ人を得るためである。律法の下にある人には、わたし自身は律法の下にはないが、律法の下にある者のようになった。律法の下にある人を得るためである。

9:21 律法のない人には——わたしは神の律法の外にあるのではなく、キリストの律法の中にあるのだが——律法のない人のようになった。律法のない人を得るためである。

9:22 弱い人には弱い者になった。弱い人を得るためである。すべての人に対しては、すべての人のようになった。なんとかして幾人かを救うためである。

9:23 福音のためなら、わたしはどんなことでもします。それは、わたしが福音に共にあずかる者となるためです。

9:24 あなたがたは知らないのですか。競技場で走る者は皆走るけれども、賞を受けるのは一人だけです。あなたがたも賞を得るように走りなさい。

9:25 競技をする人は皆、すべてに節制します。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするのですが、わたしたちは、朽ちない冠を得るために節制するのです。

9:26 だから、わたしとしては、やみくもに走ったりしないし、空を打つような拳闘もしません。

9:27 むしろ、自分の体を打ちたたいて服従させます。それは、他の人々に宣教しておきながら、自分の方が失格者になってしまわないためです。

使徒 18:3 (新共同訳)

18:3 職業が同じであったので、彼らの家に住み込んで、一緒に仕事をした。その職業はテント造りであった。

ロマ 16:3 (新共同訳)

16:3 キリスト・イエスに結ばれてわたしの協力者となっている、プリスカとアクラによろしく。

ロマ 16:7 (新共同訳)

16:7 わたしの同胞で、一緒に捕らわれの身となったことのある、アンドロニコとユニアスによろしく。この二人は使徒たちの中で目立っており、わたしより前にキリストを信じる者になりました。

I コリ 7:8 (新共同訳)

7:8 未婚者とやもめに言いますが、皆わたしのように独りでいるのがよいでしょう。

使徒 4:36、37 (新共同訳)

4:36 たとえば、レビ族の人で、使徒たちからバルナバ——「慰めの子」という意味——と呼ばれていた、キプロス島生まれのヨセフも、

4:37 持っていた畑を売り、その代金を持って来て使徒たちの足もとに置いた。

9:23 福音のために、わたしはどんな事でもする。わたしも共に福音にあずかるためである。

9:24 あなたがたは知らないのか。競技場で走る者は、みな走りはするが、賞を得る者はひとりだけである。あなたがたも、賞を得るように走りなさい。

9:25 しかし、すべて競技をする者は、何ごとにも節制をする。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするが、わたしたちは朽ちない冠を得るためにそうするのである。

9:26 そこで、わたしは目標のはっきりしないような走り方をせず、空を打つような拳闘はしない。

9:27 すなわち、自分のからだを打ちたたいて服従させるのである。そうしないと、ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分は失格者になるかも知れない。

使徒 18:3 (口語訳)

18:3 パウロは彼らのところに行ったが、互に同業であったので、その家に住み込んで、一緒に仕事をした。天幕造りがその職業であった。

ロマ 16:3 (口語訳)

16:3 キリスト・イエスにあるわたしの同労者プリスカとアクラとに、よろしく言ってほしい。

ロマ 16:7 (口語訳)

16:7 わたしの同族であって、わたしと一緒に投獄されたことのあるアンデロニコとユニアスとに、よろしく。彼らは使徒たちの間で評判がよく、かつ、わたしよりも先にキリストを信じた人々である。

I コリ 7:8 (口語訳)

7:8 次に、未婚者たちとやもめたちとに言うが、わたしのように、ひとりでおれば、それがいちばんよい。

使徒 4:36、37 (口語訳)

4:36 クプロス人のレビ人で、使徒たちにバルナバ（「慰めの子」との意）と呼ばれていたヨセフは、

4:37 自分の所有する畑を売り、その代金をもってきて、使徒たちの足もとに置いた。

I テモ 5:18 (新共同訳)

5:18 聖書には、「脱穀している牛に口籠をはめてはならない」と、また「働く者が報酬を受けるのは当然である」と書かれています。

I テモ 5:18 (口語訳)

5:18 聖書は、「穀物をこなしている牛に、くつこをかけてはならない」また「働き人がその報酬を受けるのは当然である」と言っている。

火曜日 7月28日 過去から学ぶ

パウロは、自らの経験から自己否定の例を示したあと、特に偶像礼拝の問題に目を向けます。ある意味で、I コリント10章は、同9:27の考えを発展させたものです。その節でパウロは、失格者になってしまわぬように自己鍛錬を行っていると述べています。彼は、コリントの信徒が自分の模範に従うことを望んでいます、イエスこそが最高の模範なのです(I コリ 11:1)。

問3 I コリント10:7~11を読んでください。イスラエルは荒れ野でどんな罪を犯しましたか。彼らに与えられた特権は、なぜ彼らの罪をさらに悪化させたのでしょうか。

I コリント10:1~5でパウロは、荒れ野における神の民の歴史に間接的に言及しています。雲と海への言及は、神の導き、臨在、保護を思い起こさせ、一方、食物と飲み物は、神の備えをあらわしています。パウロは、雲と海の中でのイスラエルの経験を洗礼と語り、クリスチャンのバプテスマになぞらえています。同様に、食物と飲み物に言及することによって、主の晩餐を示唆しています。

言い換えれば、I コリント10章は、ある意味でクリスチャンもイスラエルと同じ経験をしていると教えているのです。しかし、パウロがイスラエルの歴史を思い起こすのは、その歴史が繰り返されることを望まないからです。イスラエルはあらゆる特権を持っていたにもかかわらず、多くの民が偶像礼拝(I コリ 10:7)やみだらなこと[口語訳:不品行](同 10:8)など、悪しきことを望んだのでした(同 10:6)。ですから、「彼らの大部分(が)神の御心に適わ(なかった)」[口語訳「彼らの中の大多数は、神のみこころにかなわなかった」](同 10:5)のも不思議ではありません。

古代イスラエルを非難し、彼らは重大な罪を犯したと言うことは簡単です。しかしパウロは、クリスチャンもまた、キリストの歴史を知っているという大きな特権があるにもかかわらず、同様の罪を犯しやすいと主張しています。このことは、「立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい」(同 10:12)という警告に明確にあらわされています。「思う者」という表現は、そのような罪に陥る危険の中にあることを気づいていない人が、教会の中にいたことを示唆しています。私たちも今日、同じ危険に直面しているのではないのでしょうか。この警告は他人事ではありません。

神は、「耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます」〔口語訳「耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さる」〕(Ⅰコリ 10:13)。それなのに、なぜ私たちは、いまだに罪に陥りやすいのでしょうか。

35

Ⅰコリ 9:27 (新共同訳)

9:27 むしろ、自分の体を打ちたたいて服従させます。それは、他の人々に宣教しておきながら、自分の方が失格者になってしまわないためです。

Ⅰコリ 10:1~33 (新共同訳)

10:1 兄弟たち、次のことはぜひ知っておいてほしい。わたしたちの先祖は皆、雲の下におり、皆、海を通り抜け、
10:2 皆、雲の中、海の中で、モーセに属するものとなる洗礼を授けられ、

10:3 皆、同じ霊的な食物を食べ、

10:4 皆が同じ霊的な飲み物を飲みました。彼らが飲んだのは、自分たちに離れずについて来た霊的な岩からでしたが、この岩こそキリストだったのです。

10:5 しかし、彼らの大部分は神の御心に適わず、荒れ野で滅ぼされてしまいました。

10:6 これらの出来事は、わたしたちを戒める前例として起こったのです。彼らが悪をむさぼったように、わたしたちが悪をむさぼることのないために。

10:7 彼らの中のある者がしたように、偶像を礼拝してはいけない。「民は座って飲み食いし、立って踊り狂った」と書いてあります。

10:8 彼らの中のある者がしたように、みだらなことをしないようにしましょう。みだらなことをした者は、一日で二万三千人倒れて死にました。

10:9 また、彼らの中のある者がしたように、キリストを試みないようにしよう。試みた者は、蛇にかまれて滅びました。

10:10 彼らの中には不平を言う者がいたが、あなたがたはそのように不平を言うてはいけない。不平を言った者は、滅ぼす者に滅ぼされました。

Ⅰコリ 9:27 (口語訳)

9:27 すなわち、自分のからだを打ちたたいて服従させるのである。そうしないと、ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分は失格者になるかも知れない。

Ⅰコリ 10:1~33 (口語訳)

10:1 兄弟たちよ。このことを知らずにいてもらいたくない。わたしたちの先祖はみな雲の下におり、みな海を通り、
10:2 みな雲の中、海の中で、モーセにつくバプテスマを受けた。

10:3 また、みな同じ霊的食物を食べ、

10:4 みな同じ霊の飲み物を飲んだ。すなわち、彼らについてきた霊の岩から飲んだのであるが、この岩はキリストにほかならない。

10:5 しかし、彼らの中の大多数は、神のみこころにかなわなかったので、荒野で滅ぼされてしまった。

10:6 これらの出来事は、わたしたちに対する警告であって、彼らが悪をむさぼったように、わたしたちも悪をむさぼることのないためなのである。

10:7 だから、彼らの中のある者たちのように、偶像礼拝者になってはならない。すなわち、「民は座して飲み食いをし、また立って踊り戯れた」と書いてある。

10:8 また、ある者たちがしたように、わたしたちは不品行をしてはならない。不品行をしたため倒された者が、一日に二万三千人もあった。

10:9 また、ある者たちがしたように、わたしたちは主を試みてはならない。主を試みた者は、へびに殺された。

10:10 また、ある者たちがつぐやいたように、つぐやいてはならない。つぐやいた者は、「死の使」に滅ぼされた。

10:11 これらのことは前例として彼らに起こったのです。それが書き伝えられているのは、時の終わりに直面しているわたしたちに警告するためなのです。

10:12 だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい。

10:13 あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。

10:14 わたしの愛する人たち、こういうわけですから、偶像礼拝を避けなさい。

10:15 わたしはあなたがたを分別ある者と考えて話します。わたしの言うことを自分で判断しなさい。

10:16 わたしたちが神を賛美する賛美の杯は、キリストの血にあずかることではないか。わたしたちが裂くパンは、キリストの体にあずかることではないか。

10:17 パンは一つだから、わたしたちは大勢でも一つの体です。皆が一つのパンを分けて食べるからです。

10:18 肉によるイスラエルの人々のことを考えてみなさい。供え物を食べる人は、それが供えてあった祭壇とかかわる者になるものではありませんか。

10:19 わたしは何を言おうとしているのか。偶像に供えられた肉が何か意味を持つということでしょうか。それとも、偶像が何か意味を持つということでしょうか。

10:20 いや、わたしが言おうとしているのは、偶像に献げる供え物は、神ではなく悪霊に献げている、という点なのです。わたしは、あなたがたに悪霊の仲間になってほしくありません。

10:21 主の杯と悪霊の杯の両方を飲むことはできないし、主の食卓と悪霊の食卓の両方に着くことはできません。

10:22 それとも、主にねたみを起こさせるつもりなのですか。わたしたちは、主

10:11 これらの事が彼らに起ったのは、他に対する警告としてであって、それが書かれたのは、世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである。

10:12 だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい。

10:13 あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。

10:14 それだから、愛する者たちよ。偶像礼拝を避けなさい。

10:15 賢明なあなたがたに訴える。わたしの言うことを、自ら判断してみるがよい。

10:16 わたしたちが祝福する祝福の杯、それはキリストの血にあずかることではないか。わたしたちがさくパン、それはキリストのからだにあずかることではないか。

10:17 パンが一つであるから、わたしたちは多くいても、一つのからだなのである。みんなの者が一つのパンを共にいただくからである。

10:18 肉によるイスラエルを見るがよい。供え物を食べる人たちは、祭壇にあずかるのではないか。

10:19 すると、なんと言ったらよいか。偶像にささげる供え物は、何か意味があるのか。また、偶像は何かほんとうにあるものか。

10:20 そうではない。人々が供える物は、悪霊ども、すなわち、神ならぬ者に供えるのである。わたしは、あなたがたが悪霊の仲間になることを望まない。

10:21 主の杯と悪霊どもの杯とを、同時に飲むことはできない。主の食卓と悪霊どもの食卓とに、同時にあずかることはできない。

10:22 それとも、わたしたちは主のねたみを起そうとするのか。わたしたちは、

より強い者でしょうか。

10:23 「すべてのことが許されている。」しかし、すべてのことが益になるわけではない。「すべてのことが許されている。」しかし、すべてのことがわたしたちを造り上げるわけではない。

10:24 だれでも、自分の利益ではなく他人の利益を追い求めなさい。

10:25 市場で売っているものは、良心の問題としていちいち詮索せず、何でも食べなさい。

10:26 「地とそこに満ちているものは、主のもの」だからです。

10:27 あなたがたが、信仰を持っていない人から招待され、それに応じる場合、自分の前に出されるものは、良心の問題としていちいち詮索せず、何でも食べなさい。

10:28 しかし、もしだれかがあなたがたに、「これは偶像に供えられた肉です」と言うなら、その人のため、また、良心のために食べてはいけません。

10:29 わたしがこの場合、「良心」と言うのは、自分の良心ではなく、そのように言う他人の良心のことです。どうしてわたしの自由が、他人の良心によって左右されることがありましょう。

10:30 わたしが感謝して食べているのに、そのわたしが感謝しているものについて、なぜ悪口を言われるわけがあるのです。

10:31 だから、あなたがたは食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい。

10:32 ユダヤ人にも、ギリシア人にも、神の教会にも、あなたがたは人を惑わす原因にならないようにしなさい。

10:33 わたしも、人々を救うために、自分の益ではなく多くの人の益を求めて、すべての点ですべての人を喜ばそうとしているのですから。

I コリ 11:1 (新共同訳)

11:1 わたしがキリストに倣う者であるように、あなたがたもこのわたしに倣う者となりなさい。

主よりも強いのだろうか。

10:23 すべてのことは許されている。しかし、すべてのことが益になるわけではない。すべてのことは許されている。しかし、すべてのことが人の徳を高めるのではない。

10:24 だれでも、自分の益を求めないで、ほかの人の益を求めるべきである。

10:25 すべて市場で売られている物は、いちいち良心に問うことをしないで、食べるがよい。

10:26 地とそれに満ちている物とは、主のものだからである。

10:27 もしあなたがたが、不信者のだれかに招かれて、そこに行こうと思う場合、自分の前に出される物はなんでも、いちいち良心に問うことをしないで、食べるがよい。

10:28 しかし、だれかがあなたがたに、これはささげ物の肉だと言ったなら、それを知らせてくれた人のために、また良心のために、食べないがよい。

10:29 良心と言ったのは、自分の良心ではなく、他人の良心のことである。なぜなら、わたしの自由が、どうして他人の良心によって左右されることがあろうか。

10:30 もしわたしが感謝して食べる場合、その感謝する物について、どうして人のそしりを受けるわけがあろうか。

10:31 だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである。

10:32 ユダヤ人にもギリシア人にも神の教会にも、つまずきになってはいけな

10:33 わたしもまた、何事にもすべての人に喜ばれるように努め、多くの人が救われるために、自分の益ではなく彼らの益を求めている。

I コリ 11:1 (口語訳)

11:1 わたしがキリストにならう者であるように、あなたがたもわたしにならう者になりなさい。

問4 I コリント 10:5～22 を読んでください。なぜ私たちは偶像礼拝を避けなければならないのですか。

I コリント10:14～22でパウロは、偶像に供えられた肉の問題を再び取り上げています。偶像に肉を供えることは、今日の多くの文化では奇妙なことかもしれませんが、聖書の時代には一般的でした。異教の神殿で動物が生けにえとして神々にささげられたとき、その一部は、儀式を執り行った祭司に与えられ、祭司はその肉を売り、肉の一部は公共の市場で流通していました。この肉は、市場で売られているほかの肉と区別されていなかったため、クリスチャンは偶像に供えられた肉を知らずに買ってしまふ可能性がありました。使徒パウロの勧告は、次のとおりです。そのような肉は、クリスチャンが自由に買っても構わないというものでした。

しかしながら、神殿で生けにえとしてささげられたことのある肉を、クリスチャンが自宅で食べることはできても(I コリ 8:1～13)、異教の神殿に行って祭りに参加することは、クリスチャンにとって明確に禁じられていました。その基準は明確です。[唯一の神以外に]偶像の神などは存在しないため、クリスチャンは自宅でその肉を食べることが許されます(同 8:4)。しかし、異教の儀式には参加してはなりません。なぜなら、それは悪霊を礼拝することに相当するからです(同 10:20、21)。異教の儀式に参加することは、悪霊と交わることに等しいのです(同 10:20)。それは、主の晩餐に参加することがキリストと交わることに等しいのと同じです(同 10:16)。

ですからパウロは、「主の杯と悪霊の杯の両方を飲むことはできないし、主の食卓と悪霊の食卓の両方に着くことはできません」[口語訳「主の杯と悪霊どもの杯とを、同時に飲むことはできない。主の食卓と悪霊どもの食卓とに、同時にあずかることはできない」](I コリ 10:21)と言っています。「だれも、二人の主人に仕えることはできない」[口語訳「だれも、二人の主人に兼ね仕えることはできない」](マタ 6:24)と、イエスが言われたとおりです。

パウロは、神は心からの忠誠を求めておられると教えています。また、偶像礼拝は、「主にねたみを起こさせる」[口語訳「主のねたみを起そうとする」](I コリ 10:22)と示唆しています。そうならないように、I コリント8:4～6でパウロは、次の申命記 6:4、5を踏まえて、偶像礼拝に対する絶対的な原則を示しています。「聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」[口語訳「イスラエルよ聞け。われわれの神、主は唯一の主である。あなたは心をつくし、精神をつくし、力をつくして、あなたの神、主を愛さなければならない」](申 6:4、5、強調付加)。申命記6:5にある、神を何よりも愛しなさいという教えに、イエスは、こう付け加えられました。「隣人を自分のように愛しなさい」[口語訳「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」](マコ 12:31、レビ 19:18も参照)。

【参考】英語テキストにある文

An idol doesn't have to be a stone statue. We can make an idol out of just about anything. What idols, if any, do you need to flee from in your own life?

偶像は必ずしも石像である必要はありません。私たちはほとんどあらゆるものを偶像にしてしまうことができます。あなた自身の人生において、もしあるとすれば、どんな偶像から逃れる必要があるでしょうか。

36

I コリ 10:5~22 (新共同訳)

10:5 しかし、彼らの大部分は神の御心に適わず、荒れ野で滅ぼされてしまいました。

10:6 これらの出来事は、わたしたちを戒める前例として起こったのです。彼らが悪をむさぼったように、わたしたちが悪をむさぼることのないために。

10:7 彼らの中のある者がしたように、偶像を礼拝してはいけない。「民は座って飲み食いし、立って踊り狂った」と書いてあります。

10:8 彼らの中のある者がしたように、みだらなことをしないようにしましょう。みだらなことをした者は、一日で二万三千人倒れて死にました。

10:9 また、彼らの中のある者がしたように、キリストを試みないようにしよう。試みた者は、蛇にかまれて滅びました。

10:10 彼らの中には不平を言う者がいたが、あなたがたはそうのように不平を言うてはいけない。不平を言った者は、滅ぼす者に滅ぼされました。

10:11 これらのことは前例として彼らに起こったのです。それが書き伝えられているのは、時の終わりに直面しているわたしたちに警告するためなのです。

10:12 だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい。

10:13 あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。

10:14 わたしの愛する人たち、こういう

I コリ 10:5~22 (口語訳)

10:5 しかし、彼らの中の大多数は、神のみこころにかなわなかったので、荒野で滅ぼされてしまった。

10:6 これらの出来事は、わたしたちに対する警告であって、彼らが悪をむさぼったように、わたしたちも悪をむさぼることのないためなのである。

10:7 だから、彼らの中のある者たちのように、偶像礼拝者になってはならない。すなわち、「民は座して飲み食いし、また立って踊り戯れた」と書いてある。

10:8 また、ある者たちがしたように、わたしたちは不品行をしてはならない。不品行をしたため倒された者が、一日に二万三千人もあった。

10:9 また、ある者たちがしたように、わたしたちは主を試みてはならない。主を試みた者は、へびに殺された。

10:10 また、ある者たちがつぐやいたように、つぐやいてはならない。つぐやいた者は、「死の使」に滅ぼされた。

10:11 これらの事が彼らに起こったのは、他に対する警告としてであって、それが書かれたのは、世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである。

10:12 だから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけるがよい。

10:13 あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。

10:14 それだから、愛する者たちよ。偶像

わけですから、偶像礼拝を避けなさい。
10:15 わたしはあなたがたを分別ある者と
考えて話します。わたしの言うことを
自分で判断しなさい。

10:16 わたしたちが神を賛美する賛美の
杯は、キリストの血にあずかることでは
ないか。わたしたちが裂くパンは、キリ
ストの体にあずかることではないか。

10:17 パンは一つだから、わたしたちは
大勢でも一つの体です。皆が一つのパン
を分けて食べるからです。

10:18 肉によるイスラエルの人々のこと
を考えてみなさい。供え物を食べる人は、
それが供えてあった祭壇とかかわる者にな
るのではありませんか。

10:19 わたしは何を言おうとしているの
か。偶像に供えられた肉が何か意味を持
つということでしょうか。それとも、偶
像が何か意味を持つということでしょう
か。

10:20 いや、わたしが言おうとしている
のは、偶像に献げる供え物は、神ではな
く悪霊に献げている、という点なのです。
わたしは、あなたがたに悪霊の仲間にな
ってほしくありません。

10:21 主の杯と悪霊の杯の両方を飲むこ
とはできないし、主の食卓と悪霊の食卓
の両方に着くことはできません。

10:22 それとも、主にねたみを起こさせ
るつもりなのですか。わたしたちは、主
より強い者でしょうか。

I コリ 8:1～13 (新共同訳)

8:1 偶像に供えられた肉について言え
ば、「我々は皆、知識を持っている」とい
うことは確かです。ただ、知識は人を高
ぶらせるが、愛は造り上げる。

8:2 自分は何か知っていると思う人がいた
ら、その人は、知らねばならぬことを
まだ知らないのです。

8:3 しかし、神を愛する人がいれば、その
人は神に知られているのです。

8:4 そこで、偶像に供えられた肉を食べ
ることについてですが、世の中に偶像の
神ではなく、また、唯一の神以外にい

礼拝を避けなさい。

10:15 賢明なあなたがたに訴える。わた
しの言うことを、自ら判断してみるがよ
い。

10:16 わたしたちが祝福する祝福の杯、
それはキリストの血にあずかることでは
ないか。わたしたちがさくパン、それは
キリストのからだにあずかることではな
いか。

10:17 パンが一つであるから、わたした
ちは多くいても、一つのからだなのであ
る。みんなの者が一つのパンを共にいた
だくからである。

10:18 肉によるイスラエルを見るがよ
い。供え物を食べる人たちは、祭壇にあ
ずかるのではないか。

10:19 すると、なんと言ったらよいか。偶
像にささげる供え物は、何か意味がある
のか。また、偶像は何かほんとうにある
もののか。

10:20 そうではない。人々が供える物は、
悪霊ども、すなわち、神ならぬ者に供え
るのである。わたしは、あなたがたが悪
霊の仲間になることを望まない。

10:21 主の杯と悪霊どもの杯とを、同時
に飲むことはできない。主の食卓と悪霊
どもの食卓とに、同時にあずかることは
できない。

10:22 それとも、わたしたちは主のねた
みを起そうとするのか。わたしたちは、
主よりも強いのだろうか。

I コリ 8:1～13 (口語訳)

8:1 偶像への供え物について答えると、
「わたしたちはみな知識を持っている」
ことは、わかっている。しかし、知識は
人を誇らせ、愛は人の徳を高める。

8:2 もし人が、自分は何か知っているとい
思うなら、その人は、知らなければなら
ないほどの事すら、まだ知っていない。

8:3 しかし、人が神を愛するなら、その人
は神に知られているのである。

8:4 さて、偶像への供え物を食べるこ
とについては、わたしたちは、偶像なるも
のは実際は世に存在しないこと、また、

かなる神もいないことを、わたしたちは知っています。

8:5 現に多くの神々、多くの主がいると思われているように、たとえ天や地に神々と呼ばれるものもいても、

8:6 わたしたちにとっては、唯一の神、父である神がおられ、万物はこの神から出、わたしたちはこの神へ帰って行くのです。また、唯一の主、イエス・キリストがおられ、万物はこの主によって存在し、わたしたちもこの主によって存在しているのです。

8:7 しかし、この知識がだれにでもあるわけではありません。ある人々は、今までの偶像になじんできた習慣にとらわれて、肉を食べる際に、それが偶像に供えられた肉だということが念頭から去らず、良心が弱いために汚されるのです。

8:8 わたしたちを神のもとに導くのは、食物ではありません。食べないからといって、何かを失うわけではなく、食べたからといって、何かを得るわけではありません。

8:9 ただ、あなたがたのこの自由な態度が、弱い人々を罪に誘うことにならないように、気をつけなさい。

8:10 知識を持っているあなたが偶像の神殿で食事の席に着いているのを、だれかが見ると、その人は弱いのに、その良心が強められて、偶像に供えられたものを食べるようにならないだろうか。

8:11 そうなると、あなたの知識によって、弱い人が滅びてしまいます。その兄弟のためにもキリストが死んでくださったのです。

8:12 このようにあなたがたが、兄弟たちに対して罪を犯し、彼らの弱い良心を傷つけるのは、キリストに対して罪を犯すことなのです。

8:13 それだから、食物のことがわたしの兄弟をつまずかせるくらいなら、兄弟をつまずかせないために、わたしは今後決して肉を口にしません。

マタ 6:24 (新共同訳)

6:24 「だれも、二人の主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛する

唯一の神のほかには神がないことを、知っている。

8:5 というのは、たとい神々といわれるものが、あるいは天に、あるいは地にあるとしても、そして、多くの神、多くの主があるようではあるが、

8:6 わたしたちには、父なる唯一の神のみがいますのである。万物はこの神から出て、わたしたちもこの神に帰する。また、唯一の主イエス・キリストのみがいますのである。万物はこの主により、わたしたちもこの主によっている。

8:7 しかし、この知識をすべての人が持っているのではない。ある人々は、偶像についての、これまでの習慣上、偶像への供え物として、それを食べるが、彼らの良心が、弱いために汚されるのである。

8:8 食物は、わたしたちを神に導くものではない。食べなくても損はないし、食べても益にはならない。

8:9 しかし、あなたがたのこの自由が、弱い者たちのつまずきにならないように、気をつけなさい。

8:10 なぜなら、ある人が、知識のあるあなたが偶像の宮で食事をしているのを見た場合、その人の良心が弱いため、それに「教育されて」、偶像への供え物を食べるようにならないだろうか。

8:11 するとその弱い人は、あなたの知識によって滅びることになる。この弱い兄弟のためにも、キリストは死なれたのである。

8:12 このようにあなたがたが、兄弟たちに対して罪を犯し、その弱い良心を痛めるのは、キリストに対して罪を犯すことなのである。

8:13 だから、もし食物がわたしの兄弟をつまずかせるなら、兄弟をつまずかせないために、わたしは永久に、断じて肉を食べることはしない。

マタ 6:24 (口語訳)

6:24 だれも、ふたりの主人に兼ね仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛

か、一方に親しんで他方を軽んじるか、どちらかである。あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」

申 6:4、5 (新共同訳)

6:4 聞け、イスラエルよ。我らの神、主は唯一の主である。

6:5 あなたは心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。

マコ 12:31 (新共同訳)

12:31 第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない。」

レビ 19:18 (新共同訳)

19:18 復讐してはならない。民の人々に恨みを抱いてはならない。自分自身を愛するように隣人を愛しなさい。わたしは主である。

し、あるいは、一方に親しんで他方をうとんじるからである。あなたがたは、神と富とに兼ね仕えることはできない。

申 6:4、5 (口語訳)

6:4 イスラエルよ聞け。われわれの神、主は唯一の主である。

6:5 あなたは心をつくし、精神をつくし、力をつくして、あなたの神、主を愛さなければならない。

マコ 12:31 (口語訳)

12:31 第二はこれである、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。これより大事なないましめは、ほかにない。」

レビ 19:18 (口語訳)

19:18 あなたはあだを返してはならない。あなたの民の人々に恨みをいだいてはならない。あなた自身のようにあなたの隣人を愛さなければならない。わたしは主である。

木曜日 7月30日 偶像礼拝を克服する

I コリント8:1～3でパウロは、神への愛がわたしたちを偶像礼拝から守ると主張しています。この主張は、同10:23～11:1で再開し、さらに展開されています。

I コリント8:3で彼は、神への愛について語っています。また同10:24では、「**だれでも、自分の利益ではなく他人の利益を追い求めなさい**」(口語訳「**だれでも、自分の益を求めないで、ほかの人の益を求めるべきである**」)と、他者への愛について語っています。

問5 マルコ 10:17～22、12:28～31 を読んでください。二つの箇所には、どんな共通点があり、I コリント 10 章の状況に、いかに適用されるのでしょうか。

I コリント10章でパウロが行っていることは、マルコ12:28～31でイエスがなさったことと同じです。つまり、律法の二つの重要な戒め、何よりも神を愛することと、他者を愛することを結びつけているのです。金持ちの若い役人の物語(マコ 10:17～22)の中で、イエスはこれら二つの愛を、それぞれ申命記6:4(同10:18参照)と十戒の第二の板(同10:19参照)に言及することによって、結びつけておられます。この金持ちの若者の問題は、神や隣人を愛するよりも自分の財産を愛していたことでした(同10:22)。彼は天の宝よりも地上の宝の価値を高く評価し、貧しい人よりも自分の富を重んじていたのです(同10:21)。彼は偶像礼拝者でした。

パウロは、何よりも神を愛し、隣人を自分のように愛するという原則が、Ⅰコリント10:27、28で彼が述べている仮定的な状況に適用されるべきであることを示唆しています。これは、たとえ正当なことであっても、それが他人の良心を傷つける可能性があるなら、有益でも啓発的でもない場合があることを意味しています(Ⅰコリ 10:23)。この原則は、「すべて神の栄光を現すためにしなさい」〔口語訳「**すべて神の栄光のためにすべきである**」〕(同 10:31)という言葉に見事に要約されています。すべては神の栄光のために行われねばならないと言うことで、パウロは偶像礼拝が実にさまざまな形であらわれる可能性があることを示しています。なぜなら、神にのみ属する栄光を奪うものは、すべて偶像礼拝の一種だからです(イザ 42:8)。

Ⅰコリント10:31～11:1のパウロの言葉は、8～10章の結論となっています。彼は、「人々を救うために、自分の益ではなく多くの人の益を求め(た)」〔口語訳「**多くの人が救われるために、自分の益ではなく彼らの益を求めている**」〕(Ⅰコリ 10:33)ことを明らかにしています。そのようにして、彼はキリストに倣ったのです(同 11:1)。

どうすれば、隣人を自分のように愛せるようになるのでしょうか。

37

Ⅰコリ 8:1～3 (新共同訳)

8:1 偶像に供えられた肉について言えば、「我々は皆、知識を持っている」ということは確かです。ただ、知識は人を高ぶらせるが、愛は造り上げる。

8:2 自分は何か知っていると思う人がいたら、その人は、知らねばならぬことをまだ知らないのです。

8:3 しかし、神を愛する人がいれば、その人は神に知られているのです。

Ⅰコリ 10章 (新共同訳)

10:23 「すべてのことが許されている。」しかし、すべてのことが益になるわけではない。「すべてのことが許されている。」しかし、すべてのことがわたしたちを造り上げるわけではない。

10:24 だれでも、自分の利益ではなく他人の利益を追い求めなさい。

10:25 市場で売っているものは、良心の問題としていちいち詮索せず、何でも食べなさい。

10:26 「地とそこに満ちているものは、主のもの」だからです。

Ⅰコリ 8:1～3 (口語訳)

8:1 偶像への供え物について答えると、「わたしたちはみな知識を持っている」ことは、わかっている。しかし、知識は人を誇らせ、愛は人の徳を高める。

8:2 もし人が、自分は何か知っていると思うなら、その人は、知らなければならぬほどの事すら、まだ知っていない。

8:3 しかし、人が神を愛するなら、その人は神に知られているのである。

Ⅰコリ 10章 (口語訳)

10:23 すべてのことは許されている。しかし、すべてのことが益になるわけではない。しかし、すべてのことが人の徳を高めるのではない。

10:24 だれでも、自分の益を求めないで、ほかの人の益を求めべきである。

10:25 すべて市場で売られている物は、いちいち良心に問うことをしないで、食べるがよい。

10:26 地とそれに満ちている物とは、主のものだからである。

10:27 あなたがたが、信仰を持っていない人から招待され、それに応じる場合、自分の前に出されるものは、良心の問題としていちいち詮索せず、何でも食べなさい。

10:28 しかし、もしだれかがあなたがたに、「これは偶像に供えられた肉です」と言うなら、その人のため、また、良心のために食べてはいけません。

10:29 わたしがこの場合、「良心」と言うのは、自分の良心ではなく、そのように言う他人の良心のことです。どうしてわたしの自由が、他人の良心によって左右されることがあります。

10:30 わたしが感謝して食べているのに、そのわたしが感謝しているものについて、なぜ悪口を言われるわけがあるのです。

10:31 だから、あなたがたは食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい。

10:32 ユダヤ人にも、ギリシア人にも、神の教会にも、あなたがたは人を惑わす原因にならないようにしなさい。

10:33 わたしも、人々を救うために、自分の益ではなく多くの人の益を求めて、すべての点ですべての人を喜ばそうとしているのですから。

Ⅰコリ 11:1 (新共同訳)

11:1 わたしがキリストに倣う者であるように、あなたがたもこのわたしに倣う者となりなさい。

マコ 10:17～22 (新共同訳)

10:17 イエスが旅に出ようとされると、ある人が走り寄って、ひざまずいて尋ねた。「善い先生、永遠の命を受け継ぐには、何をすればよいでしょうか。」

10:18 イエスは言われた。「なぜ、わたしを『善い』と言うのか。神おひとりのほかに、善い者はだれもない。

10:19 『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、奪い取るな、父母を敬え』という掟をあなたは知っているはずだ。」

10:20 すると彼は、「先生、そういうことはみな、子供の時から守ってきました」

10:27 もしあなたがたが、不信者のだれかに招かれて、そこに行こうと思う場合、自分の前に出される物はなんでも、いちいち良心に問うことをしないで、食べるがよい。

10:28 しかし、だれかがあなたがたに、これはささげ物の肉だと言ったなら、それを知らせてくれた人のために、また良心のために、食べないがよい。

10:29 良心と言ったのは、自分の良心ではなく、他人の良心のことである。なぜなら、わたしの自由が、どうして他人の良心によって左右されることがあろうか。

10:30 もしわたしが感謝して食べる場合、その感謝する物について、どうして人のそしりを受けるわけがあろうか。

10:31 だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである。

10:32 ユダヤ人にもギリシア人にも神の教会にも、つまずきになってはいけない。

10:33 わたしもまた、何事にもすべての人に喜ばれるように努め、多くの人が救われるために、自分の益ではなく彼らの益を求めている。

Ⅰコリ 11:1 (口語訳)

11:1 わたしがキリストにならう者であるように、あなたがたもわたしにならう者になりなさい。

マコ 10:17～22 (口語訳)

10:17 イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄り、みまえにひざまずいて尋ねた、「よき師よ、永遠の生命を受けるために、何をしたらよいでしょうか。」

10:18 イエスは言われた、「なぜわたしをよき者と言うのか。神ひとりのほかによい者はいない。

10:19 いましめはあなたの知っているとおりである。『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな。欺き取るな。父と母とを敬え』。

10:20 すると、彼は言った、「先生、それらの事はみな、小さい時から守っており

と言った。

10:21 イエスは彼を見つめ、慈しんで言われた。「あなたに欠けているものが一つある。行って持っている物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」

10:22 その人はこの言葉に気を落とし、悲しみながら立ち去った。たくさんの財産を持っていたからである。

マコ 12:28～31 (新共同訳)

12:28 彼らの議論を聞いていた一人の律法学者が進み出、イエスが立派にお答えになったのを見て、尋ねた。「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか。」

12:29 イエスはお答えになった。「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、わたしたちの神である主は、唯一の主である。』

12:30 心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』

12:31 第二の掟は、これである。『隣人を自分のように愛しなさい。』この二つにまさる掟はほかにない。」

イザ 42:8 (新共同訳)

42:8 わたしは主、これがわたしの名。わたしは栄光をほかの神に渡さず/わたしの栄誉を偶像に与えることはしない。

ます」。

10:21 イエスは彼に目をとめ、いつくしんで言われた、「あなたに足りないものが一つある。帰って、持っているものをみな売り払って、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい」。

10:22 すると、彼はこの言葉を聞いて、顔を曇らせ、悲しみながら立ち去った。たくさんの資産を持っていたからである。

マコ 12:28～31 (口語訳)

12:28 ひとりの律法学者がきて、彼らが互に論じ合っているのを聞き、またイエスが巧みに答えられたのを認めて、イエスに質問した、「すべてのいましめの中で、どれが第一のものですか」。

12:29 イエスは答えられた、「第一のいましめはこれである、『イスラエルよ、聞け。主なるわたしたちの神は、ただひとりの主である。』

12:30 心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくして、主なるあなたの神を愛せよ』。

12:31 第二はこれである、『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ』。これより大事ないましめは、ほかにない」。

イザ 42:8 (口語訳)

42:8 わたしは主である、これがわたしの名である。わたしはわが栄光をほかの者に与えない。また、わが誉を刻んだ像に与えない。

金曜日 7月31日 さらなる研究

『人類のあけぼの』第28章「シナイでの偶像礼拝」を読んでください。

「もし私たちが互いのつながりを正しく用いるなら、どれほど多くの善がなされることだろう! 天の恵みを受けた者はみな、ほかの人の道に光を照らす義務がある。……そうすれば、真に神を愛する者はみな、自己を偶像礼拝することをやめよう!」(『アドベント・レビュー・アンド・サバス・ヘラルド』1884年11月18日号、英文)。

【参考】 — Ellen G. White, in The Advent Review and Sabbath Herald, November 18, 1884, p. 730.

“How much good might be done if we would make a right use of our associations with

one another! Every one who has received of the heavenly benefits is under obligation to shed some light on the pathway of others. . . . Then all those who truly love God will cease their idolatry of self.”

「パウロは兄弟たちに、彼らの言行の影響についての反省を促し、たとえ、どんなにその事自体は誤っていないように思われても、偶像礼拝を是認したり、あるいは、信仰の弱い者の良心を傷つけたりするようなことは、何一つしないようにと勧告した。『だから、飲むにも食べるにも、また何事をするにも、すべて神の栄光のためにすべきである』

コリント教会への使徒パウロの警告の言葉は、各時代に当てはまるが、待にわれわれの時代に適合している。彼が、偶像礼拝と言ったのは、ただ偶像を拝むことだけでなく、自己の利益を追求し、安楽を愛し、食欲と情欲をほしいままにすることを意味していた」（『希望への光』1475 ページ、『患難から栄光へ』第30章）。

「もし、あなたが正当な権利を持ってできることであっても、それを行うことで神の御業の進展を妨げるとわかるなら、そのことは控えなさい。真理に対してほかの人の心を閉ざしてしまうようなことは、何一つしてはならない。……すべてのことは許されているかもしれないが、すべてのことが益となるわけではないのである」（『教会への証』第9巻215 ページ、英文）。

【参考】 — Ellen G. White, Testimonies for the Church, vol. 9, p. 215.

“If you see that by doing certain things which you have a perfect right to do, you hinder the advancement of God’s work, refrain from doing those things. Do nothing that will close the minds of others against the truth. . . . All things may be lawful, but all things are not expedient.”

話し合いのための質問

- ① パウロによれば、成熟したクリスチャンの行動が、時として未熟なクリスチャンの成長を妨げることがあります。このような状況が起こりうる状況を考えてみてください。何よりも神を愛し、他者を自分のように愛するという原則が、なぜこの問題に対処する唯一の方法なのでしょう。
- ② 注意していないと、クリスチャンであっても、礼拝してしまう可能性のある偶像には、どんなものがありますか。良いものであっても、私たちが偶像に変えてしまうものはあるでしょうか。また、自分がとても大切にしているものが偶像になってしまったかどうか、どうすればわかるのでしょうか。

【参考】英語テキストの③を記載します。

Paul says he disciplined his body and brought it into subjection so he would not become disqualified when preaching the gospel (1 Cor. 9:27). Based on this week’s study, think about what can disqualify a person as a preacher of the gospel.

パウロは、福音を宣べ伝える際に失格者とならないよう、自分の体を鍛え、従わせたと述べています（1コリ9:27）。今週の学びを踏まえて、福音を宣べ伝える者として、どのようなことが失格の原因となり得るのか考えてみてください。

- ③ I コリント 10 章でパウロは、偶像礼拝の危険性を取り上げ、「偶像礼拝を避けなさい」(I コリ10:14)と述べています。なぜ偶像礼拝は、それほど悪いことなのでしょう。

38

I コリ 9:27 (新共同訳)

9:27 むしろ、自分の体を打ちたたいて服従させます。それは、他の人々に宣教しておきながら、自分の方が失格者になってしまわないためです。

I コリ 10:14 (新共同訳)

10:14 わたしの愛する人たち、こういうわけですから、偶像礼拝を避けなさい。

I コリ 9:27 (口語訳)

9:27 すなわち、自分のからだを打ちたたいて服従させるのである。そうしないと、ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分は失格者になるかも知れない。

I コリ 10:14 (口語訳)

10:14 それだから、愛する者たちよ。偶像礼拝を避けなさい。

【参考】副読本にある《概要》を転載します。

コリントの信徒への手紙 I (コリント人への第一の手紙) 8~10章によると、知識は必要不可欠であるが、誤用されたり過大評価されたりすると害となり、共同体を築き上げるどころか、高慢に陥ることがあります。パウロは、イエスを、荒野でのイスラエルの不従順を思い起こさせることで偶像礼拝に陥らないように戒め、偶像に結び付いた慣習にふけて神を試すことは裁きを招くと、コリントの信徒たちに警告しています。パウロのメッセージは、互いに思いやり、すべてのことを神の栄光のために行うことに焦点を当てています。これは同様に、今日の私たちにとっても力強いメッセージです。